



令和5年2月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

伊豆東岸定置網 2023年上半期漁海況予報

神奈川県水産技術センターと共同で、2022年上半期（1～6月）の漁海況を予測しました。

黒潮は2017年9月中旬以降、大蛇行流路が継続しており、今期も継続する見通しです。また、沿岸水温は「平年並」～「高め」で推移し、黒潮からの暖水波及が流入した場合は「極めて高め」と予測しました。

主要魚種の動向は、資源量が低水準にある魚種のうち、マアジは前年を下回る、カタクチイワシ、ゴマサバは前年並～前年を下回ると予測しました。資源量が高水準の魚種では、ブリが前年並～上回ると予測しましたが、マサバ、マイワシは常磐沖の黒潮続流の北偏が2023年1月以降も継続することが予測されており、産卵のため南下してくるのが遅れるおそれがあり、前年並～前年を下回ると予測しました。

海況	黒潮は大蛇行が継続してA型基調で推移する。沿岸水温は「平年並み」から「高め」で推移する。黒潮からの暖水波及が流入した場合は「極めて高め」となる。
マアジ	来遊量は前年を下回る。魚体は尾叉長20cm前後。
マサバ	来遊量は前年並～下回る。魚体は尾叉長30～35cm。
ゴマサバ	来遊量は前年を下回る。魚体は尾叉長30cm以上及び25～30cm。
マイワシ	来遊量は前年並み～下回る。魚体は被鱗体長13～15cm。
カタクチイワシ	来遊量は前年並み～下回る。魚体は被鱗体長9～11cm。
ブリ	来遊量は前年並み～上回る。銘柄ぶり・わらさ主体。

漁師の森づくり

1月22日に南伊豆町にて、伊豆漁協南伊豆支所の漁業者やNPO伊豆未来塾の会員等により、一般参加者も交えて広葉樹の植林活動が行われました。このイベントは森づくりをすることにより豊かな海をつくることを目的としたものです。また、イベント内では漁業者により、海藻の食害魚であるブダイ等を使用した味噌汁「漁師汁」と桜チップを活用した「燻製」が振る舞われました。

本イベントは山の森と海の森（藻場）の両者を守ることに繋がります。参加者もイベントの意義を理解しながら、楽しんで植林活動を行っていました。



↑ 植林活動中



↑ 漁師汁と燻製を振る舞う

伊豆地域から漁業士7名が認定

1月19日、県の指導漁業士、青年漁業士等の認定式がありました。伊豆地域からは合わせて7名が認定されました。どなたも各地域で精力的な活動をされており、未来のリーダーとなる方々です。会場としても今後のご活躍に助力してまいります。



←指導漁業士※1の認定者
太田さん(上段左)と
千島さん(上段中)
(佐藤さん、長沢さん、
中山さんは所用により欠席)

青年漁業士※2の認定者→
富岡さん(上段左)と
小泉さん(上段右)



解説：漁業士とは地域の中核となる漁業者を県が認定する制度です。
※1：指導漁業士：先進的経営を行いながら、若手漁業者等の指導育成に積極的に参画している方を認定
※2：青年漁業士：漁業者グループ等に積極的に参画し今後も中心的な活動を見込まれる方を認定

2月の予定 ●地域栽培漁業推進協議会全国連絡会議（1日）●漁業士会総会書面決議（3日）

●磯根資源・藻場研究会（9日）●キンメダイ実践協議会（13日）●技術連絡協議会（14日）
●磯焼け対策用カジメ・アカモク種苗出荷（須崎、川奈）●潜水調査（土肥 テングサ施肥試験）

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。